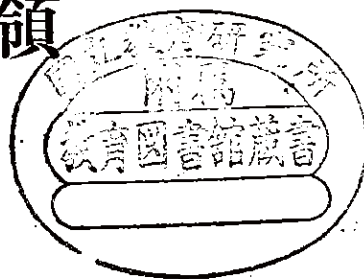


平成22年12月13日

昭和二十二年（試案）

# 保 育 要 領

—— 幼児教育の手びき ——



文  
部  
省

休息と晝寝——間食後の休息と晝食後の晝寝は、四季を通じて全部の幼児に必ずさせた方がよい。寝具は備え付けのものがなければ家から持って来させ、各自のたなか箱・こうり等を備え付けて入れておく。ふとんを敷き、まくらを出し、上着を脱ぐ等のことも、ほとんど先生がしてやるような場合でも、幼児に自分でやっているという氣持をいだかせるような手傳い方をする。寝かせる時は、エプロン、上着類を脱がせ、胸のボタンをはずし、ゆるくして寝かせ、ふとんを掛ける。睡眠時間は、寝具の用意、片づけの時間を加えて、一時間半ぐらいが適當である。

排便・排尿——排便は一日に一回、なるべく定時にし、排尿は早めにさせるようにする。

手洗所の近くに記録記入紙を用意し、排便、排尿の回数、特に異常の場合等を記入する。

ブロースの上げ下げは自分でさせる。そのためには上げ下げのしやすいものを用いさせ、また決して急がせてはならない。

#### ○保育所日課の一例。

登所——八時から九時までの間。

地域により、また季節によつて適宜変更する。

朝の検査——登所した幼児の健康状態を順々に調べる。

自由遊び。

間食——十時。

休息——約三十分。したく・休息・あと片づけ。

晝食——十一時半から十二時半まで。手洗い・うがい・したく・食事・あと片づけ。

晝寝——晝食後約一時間三十分。

自由遊び。

間食——二時半。

したく・お八つ・あと片づけ。

帰宅——三時。家庭の事情でもっとおそくまで保育する必要がある場合には適宜時間を延長する。

### 3 家庭の一日

家庭の生活は幼稚園や保育所の生活と矛盾があつてはならない。母親は幼稚園や保育所の保育に協力し、また家庭の一員としての必要な教育をしなければならない。すなわち家庭における幼児の生活は、両親はじめ家族の愛の中に、子供としての人格を認められつつ、心身ともに健やかに、朗らかに、自由に、自分のことは自分でしつつ、のびのびと生活ができるようにし、また家の手傳いをおこせ

なければならぬ。家庭であまり無関心で放任されることもいけないし、あまり嚴格に規則や時間で束縛することもよくない。

起床——決まった時間に起すことが健康の習慣の基礎として必要である。だいたい、夏は六時半、冬は七時ごろが適当と思われる。着物を自分で着替え、寝巻は自分で片づける習慣をつける。

排尿——起きたらすぐ排尿させる。

洗面——歯ブラシで歯をみがかせる。歯みがき粉はのどにはいるおそれがあるから、練り歯みがきか塩水を使わせる方がよい。二、三歳児には、必ず水歯みがきか塩水を使って、飲みこまないように注意して使わせる。顔と手をていねいに洗いくぬぐわせる。

朝のあいさつ——なるべくみんながそろって落ち着いたところで「おはよう」のあいさつをする習慣をつける。

食事——食事の時の注意は、だいたい幼稚園における晝食の項と同じ。幼児は好ききらいがあったり、おかずだけ食べたり、口に入れたまま物を言ったり、口に入れたままじっとしていたり、よくかまなかったりするから注意してやる。

排便——人間は一日に一回規則的に排便することが健康のためによく、幼児たちには、なるべく朝排便する習慣をつけるのがよい。

登園——オーバー・くつ・弁当袋など幼児が自分で始末できるようなものを用い、また場所を低いところに定めておいて、幼児が自分で取り出し、用意ができるようにする。二、三歳児などのためには、手を添えてくつなどはかせるが、自分でやるという氣持を養うようにする。母親の笑顔に送られ、「行ってまいります」のあいさつをして家を出て、近所の友だちを誘い合わせて登園する。

帰宅——「ただいま」のあいさつをする。オーバー・くつ・弁当袋など所定の場所に自分でしまし、必ずうがいと手を洗わせる。事情が許す限り、母親は幼児が幼稚園から帰る時間には家にいて迎え、連絡帳や通知等を受け取り、幼稚園のできごと、身体の異常の有無などをたずねるのが望ましい。幼児が覚えた歌をいっしょに唱ってやったり、また質問に答えてやる。

遊び——母親との話が済んだら遊びに出るかまたは家の中の子供べやで遊ぶ。子供べやを別に設けることはむずかしいが、外廊下の片すみにも、子供専用の場所を作り、手製の本だな・机等（みかん箱等を利用して）を備え、幼児だけの小さい世界を興えてやれば、自然に整理・整とんのよい態度と習慣を養成できるのである。また幼児はなるべく幼児どうしで遊ばせることが必要である。

手洗いと入浴——身体の清潔は幼児の健康上特に必要なことで、遊びから帰ったら、必ずうがいをし、手足をていねいに洗い、夏なら毎日お湯をわかつて行水させ、四季を通じて、なるべく入浴をさせる。

夕食——だいたい夕食の時間を定め、その前に遊びから帰るように習慣づける。手を洗い、できる範囲で手傳いをする。

勤めに出ている父親もなるべく夕食時間にまに合うように帰って来て、一家そろってなごやかな食事することが望ましい。

團らん——夕食後しばらく家族の者が團らんをすることは、家庭・両親・兄弟への愛情と信頼の源泉にもなることであるからぜひ行いたい。この時いつも幼児を中心にしたリ、あだてたり増長させてはいけない。また一週間に一度、土曜日や祭日の晩などは、一家そろってお話とか歌とか遊びをして楽しむのもよい。家族の誕生日などには特にそうありたいものである。

就寝——季節によって多少の変動はあっても、睡眠時間は十分にとりたい。入園当時は疲れるからなるべく早く寝かせることがたいせつである。寝る前には、排尿し、口をすすがせる。そして静かな氣持で寝につくようにしてやる。

遠足——日曜日・休日などには、できるなら一家そろって、さもなくば家族のだれかにつれられて、田舎の親類や、名所旧跡など、幼稚園・保育所では行けない所を訪れるようにしたい。

宗教教育は家庭で行われるべきものである。信仰心のあつい家庭に育てられれば、ものずからその感化を受けるであろう。神佛に対する朝夕の祈り、食前の感謝などのほかに、日曜には教会・寺院等

で開かれる日曜学校に行くとか、教会の礼拝に参列するとかして、自然に信仰の素地をつちかっけることは望ましい。また先祖の祭りや命日の墓参なども守りたいことである。